

献金について

札幌北部教会 牧師 久世そらち

*献金の意味

教会での献金は、ごりやくを願うおさいせんではありませんし、たんなる教会の会費でもありません。今日までの歩みの中で神から与えられてきたゆたかな恵みにこたえ、感謝して御前にさしだすものです。教会の宣教の働きは、こうした献金によって支えられています。わたしたちは、献金を通して、自分自身を神の福音の宣教のためにささげるのです。

聖書は「十分の一の献げもの」を教えています(創世記28:22 など)。聖書の時代の人々は、収入として与えられた収穫の十分の一を、しかも余った物ではなく初穂をささげました。つまり、収入から、まず神へのささげものを先に取り分けてささげたのです。いっぽう、「各自、不承不承ではなく、強制されてでもなく、こうしようと心に決めたとおりにしなさい。喜んで与える人を神は愛してくださるからです。」(コリントⅡ9:7)とも勧められています。自分自身の信仰にもとづいて、どのように献げるべきか、祈って決断しましょう。

教会は、このように信仰の証しとして主のためにささげられる献金を、主のみわざのためにふさわしく用いるよう毎年の総会で教会の宣教の働きと予算を定めます。また逆に、そうした具体的な働きを覚えて祈り、自分の力に依りて進んで献金を献げることで、主に仕える信仰も養われるのです。

また、献金は、教会につながり教会を支える交わりのしるしです。事情で礼拝に長く出席できないときも、献金を送ることは教会につながっているこ

との証^{あか}しとなります。

*礼拝献金

礼拝^{らいはい}のときには、できるだけ始まる^{はじめ}前に^{まえ}献金^{けんきん}を用意^{ようい}しましょう。受付^{うけつけ}で袋^{ふくろ}を受け取り^う、主^{しゅ}からいただいた^{めぐ}恵みに^{ささ}ふさわしい、せい^{せい}い^いっぱいの^{ささ}献げ^{けんげ}もの^{ようい}を用意^{ようい}します。教会^{きょうかい}会計^{かいけい}のために「あとひとつの^よコイン」も呼びかけられています。

*月定献金

教会^{きょうかい}の働き^{はたら}は「すべてのことを適宜^{てきぎ}に、かつ秩序^{ちつじょ}を正^{ただ}して行^{おこな}うがよい」（コリントII 14:40）と勧められています。主^{しゅ}から託^{たく}された^{せんきょう}宣教^{はたら}の働き^{けいかく}を計画的^{てきせつ}に行^{おこな}うために、毎年^{まいとし}の教会^{きょうかい}総会^{そうかい}で一年間^{いちねんかん}の教会^{きょうかい}の働き^{はたら}とそのための^{よさん}予算^{さだ}が定め^{きょうかい}られます。教会^{きょうかい}予算^{よさん}を支^{ささ}える^{うら}裏づけ^{げつていけんきん}となるのが^{けいかく}月定^{げつてい}献金^{けんきん}です。計画^{けいかく}された^{きょうかい}教会^{せんきょう}の^{はたら}宣教^{はたら}の働き^{ささ}をどのよう^{かんが}に支^{ささ}えるか^{しんこう}を考え^{しんこう}、それぞれに^{しんこう}信仰^{しんこう}をもって^{けつだん}決断^{かく}した^{まいつき}額^{なんかげつぶん}を毎月^{いちど}ささげ^{つき}ます。何ヶ月分^{なんかげつぶん}も一度^{いちど}にささげ^{つき}るのではなく、月ごと^{つきごと}に^{きょうかい}教会^{かい}のために^{いの}祈^{いの}ってささげ^{いの}ましょう。

月定^{げつてい}献金^{けんきん}の袋^{ふくろ}は会計^{かいけい}で用意^{ようい}します。献^{ささ}げる際^{さい}は、袋^{ふくろ}に日付^{ひづけ}・金額^{きんがく}をご記入^{きにゅう}ください。礼拝^{らいはい}献金^{けんきん}と共^{とも}にささげ^{とも}るか、あるいは会計^{かいけい}に直^{ちやく}接^{せつ}お渡^{わた}しください。遠隔^{えんかくち}地^ちなどの場合^{ばあい}、教会^{きょうかい}の郵便^{ゆうびん}振替^{ふりかえ}口座^{こうざ}を利用^{りよう}することもできます。

*自立連帯献金

かつて日本^{にほん}の教会^{きょうかい}は、欧米^{おうべい}の教会^{きょうかい}からの資金^{しきん}援助^{えんじょ}に大きく頼^{たよ}っていました。やがて、外国^{がいこく}の援助^{えんじょ}から自立^{じりつ}しようという願^{ねが}いは強^{つよ}くなりましたが、支^{しえん}援^{えん}の必要^{ひつよう}な小^{ちい}さな^{きょうかい}教会^{きょうかい}を自分^{じぶん}たちで支^{ささ}えようという意^い識^{しき}はあまり強^{つよ}く育^{そだ}ちませんでした。このよう^{しせい}な^{はんせい}姿^{しせい}勢^{せい}を反^{がいこく}省^{えんじょ}して、外国^{がいこく}の援助^{えんじょ}から「自立^{じりつ}」し、同^{どう}時^じに教会^{きょうかい}が互^{たが}いに

「^{れんたい}連帯」して^{ささ}支え合うために、^{ほっかいきょうく}北海教区では^{しゃぎほしょう}謝儀保障などの^{ざいせいてき}財政的なしくみを
^{ととの}整えてきました。現在、^{げんざい}小規模教会を支える^{しょうきぼきょうかい}謝儀保障費等のために^{ねんかんやく}年間約2200
^{まんえん}万円が^{もち}用いられ、また^{たきょうくかつどういっばん}その他教区活動一般のために^{やく}約3600万円が^{まんえん}必要とされ
ています。これらを、^{きょうくそうかい}教区総会での^{けつてい}決定に従い、^{したが}教区内の^{きょうくない}諸教会で^{しょきょうかい}分担し
ています。^{ほくぶきょうかい}北部教会の^{ねんど}2020年度の^{きょうくぶんたんきん}教区分担金は^{やく}約89万円となり^{まんえん}ます。

^{ほくぶきょうかい}北部教会では、^{はたら}こうした^{けんきん}働きのための^{じりつれんたいけんきん}献金を「^{ささ}自立連帯献金」として^{ささ}献
げています。^{きょうく}教区における^{ささ}支えあいのために、^{まいつき}毎月の^{いっぺいがく}一定額を各自で^{かくじ}決断して^{けつたん}定
めますが、^{まいつき}毎月ひとり^{へいきん}平均1500円ほど^{えん}献げられれば^{ささ}目標額が^{もくひょうがく}満た^みされ^{げつ}ます。月
^{ていけんきん}定献金と同じ^{おな}袋^{ふくろ}であわせて^{ささ}お献げください。

*特別感謝献金

^{ひび}日々の^{あゆ}歩みの中で^{なか}大きな^{おお}恵みを与えられた^{めぐ}時、^{あた}記念すべき^{とき}時などに^{きねん}すすんで
^{けんきん}献金を^{たんじょうび}ささげます。^{じゅせんきねん}誕生日・^{けつこんきねん}受洗記念・^{しょうてんきねん}結婚記念など、^{じんせい}人生の^{ふしめ}節目
を覚えるのはよいことです。とくに^し死に^{さい}際しては^{しょうがい}生涯の^{あゆ}歩みを^{かんしゃ}感謝する^{さいご}最後の
^{ささ}献げものが^{そな}できるよう^{そな}備えておきましょう。また^{かんしゃ}イースター、^{かんしゃ}クリスマスの^{かんしゃ}感謝
^{けんきん}献金の^{ほか}他、^か夏期^{きとくべつけんきん}特別献金を^{ねんかん}よびかけています。^{よてい}年間の^{おぼ}予定にお覚
えください。

*会堂建築献金

^{ねんど}2008年度に^{しんかいどう}献堂した^{ぼくしかん}新会堂・^{けんちく}牧師館の^{しゃくにゆうきん}建築のための^{へんさい}借入金^お金は^お返済を^おほぼ終
えることができましたが、^{こんご}今後の^{かいどう}会堂の^{かいどう}メンテナンスのため、^{かいどう}ひきつづき^{かいどう}会堂
^{けんきん}献金を^{せんよう}よびかけています。^{けんきんぶくろ}専用の^{はいふ}献金袋^{つぎ}を^{いつ}配布して^{いつ}いますので、^{いつ}月ごとに^{いつ}一
^{ていがく}定額を^{ささ}献げる^{ささ}ほか、^{ずいじ}随時の^{けんきん}献金にも^{りよう}ご利用ください。^{こうざふりこみ}口座振込^{りよう}を利用^{かた}したい方は
^{かいどうかんりいいんかい}会堂管理委員会^{そうだん}にご^{そうだん}相談ください。

*地区宣教協力献金

北海教区の各地区では、それぞれ独自の活動を持ち、また連帯のしくみを作っています。札幌地区では諸教会が支え合うために「地区宣教協力献金」を呼びかけ、これにより2019年度は4教会に85万円を献げることができました。このために北部教会では独自の袋を作成して教会員に配布し、地区の諸教会を覚えて月ごとに献げるようにしています。

*袋献金

教区のさまざまな働きや、緊急の災害援助のためなど、教会の特定の働きのために献金を募ることがあります。しばしばそのための献金袋が配られます。献金の趣旨は、袋に記されたり掲示板に張り出されたりしていますので、これらの課題のために祈り、その働きを支える献金に協力しましょう。献金は袋に入れ、礼拝献金といっしょにささげます。献金袋はそれぞれの週報棚または受付に用意されます。

*隠退教師を支える運動100円献金・謝恩日献金

日本キリスト教団の「隠退教師を支える運動」は、北海教区から始まって全国に広がった運動です。生活保障の充分でない隠退教師を支えるため毎月一口100円の献金をささげます。これも、一度にまとめて献げるよりも、たえず覚えて祈ることが求められています。

これとは別に、教団年金局からは11月の「謝恩日」にあわせ、「謝恩日献金」が呼びかけられています。教団の教師年金基金に献げられます。

以上